

## 牛込仲之幼稚園における

### 道徳教育の考え方

友 田 静 恵

最近、ハイティーンの犯罪が目立ち、その要因が幼児期のしつけにあるといわれている。このような時流により、幼児期の道徳教育があらためてスポットをあびるようになった。

本園では、牛込仲之小学校の道徳教育の研究と併行して、昭和三十四年度三十五年度と二ヶ年にわたって、幼稚園における道徳教育はどう考えたらよいかについて研究してきた。

次に本園における研究の一端を記して、ご参考に供したいと思う。

#### 1 道徳教育の必要性

道徳教育は、幼児の人格完成をめざして行なうものである。それがまた、教育の目標でもある。

戦後、新しく学校教育法が制定され、教育の目的が大きく変わった。その内容をあげれば、平和的、民主的な社会人を育成するところ。

この教育目標を正しく受けとって、これを指導内容に普遍させていけば、ことさら道徳教育と銘うたなくてもよいはずである。しかし、毎日の教育の場では、幼稚園教育要領の六領域のもつ特質的なものにしぼられ、ともすると、人格形成という大きな教育の焦点がぼやかされてしまうきらいがある。これは幼稚園のみでなく、小学校以上の学校でもこのような傾向がみられるようだ。そこで文部省では道徳教育の特設ということを考えた。それで小学校以上の学校では、「道徳教育」の特設時間が設けられ、週一時間のもち時間で、このぼやかされがちな、道徳的心情や態度の育成にとめようというのである。

幼稚園では、学校教育法施行以前より、全人的な教育の立場にたって、生活指導をしてきた。だからいまさら、道徳教育などと、あわてふためかなくてもよい、と大きくかまえている向もあるようだ。しかし、生活指導をしているから、道徳教育をしなくてもよいとはいえないと思う。ちなみに、幼稚園での生活指導をふりかえってみれば、廊下を走って

はいけませんとか、お便所へいったら手を洗いましよとか、鼻をかみましようなどと、主として個人の生活に関するものが、大きな比重を占めていたように思う。集団生活の場でありながら、集団としてのしつけが欠けているのではないかと思われる。だから、幼稚園においても、個人の生活習慣の形成のみではなく、平和的、民主的な社会人の育成をめざして、系統的な道徳指導の計画が必要である。

#### 2 幼稚園における道徳教育の考え方

道徳教育というと、いわゆる、戦前の修身科的な徳目をかかげ、道徳についての知識をとき、きかせるように考えられがちである。知識を得させることも、成長の途上にある幼児には必要なことかもしれない。しかし、幼児は未分化な精神発達の段階にあるので、抽象的な、徳目を並べただけでは理解しにくいのである。やはり、具体的に、日常生活の場に即して指導する方が理解もはやいし、それを実践に移そうとする意欲もわいてくるのである。また、そうすることの方が実際の生活の場で起る、さまざまな問題や行動を、自主的に解決し、そのことが道徳的な心情や、生活態度として身についていくのである。ここに道徳としての大きな価値があり、ねらいもあるのである。しかし、実践といっても学童

のように、国家・社会の一員として必要な道徳心を身につけさせるのではなく、日常生活のしつけをよく理解させ、身につけさせるようにするのである。たとえば、ブランコにのるときには、順番を字って仲よくのりましようとか、おともだちと仲よく遊びましよう、食事前後の手洗いやうがいをはじめましようなど、きわめて身近かなことがらについて、実践指導をするのである。道徳指導は具体的な実践生活に即して行なうことが、基本とならなくてはならない。そんなことなら今までのしつけと同じであるし、これまでも行なわれていた生活指導となら変わるところはないではないかと、思われる向もあろう。しかし、生活指導は、どちらかといえば、好ましくない問題が起ったとき、あるいは機会に直面して、場に即して指導することの方が多い。たとえば、ある子どもが、ひとりで積木を独占しているのを見て、お友だちにも貸してあげましようとか、けんかをしている子どもたちにお友だちどうし仲よくしましようとか教えるように、生活指導はことばの示しているように、子どもの生活そのものを指導の対象にするので、偶発的な指導の場が多いようだ。

道徳教育は、これをもっと体系的に、計画的に行なおうというのである。偶発性だけに

たよっていたのでは、指導上片よりができるおそれがある。片よった指導では、幼児の円満な人格の形成は望めないといっても、いいすぎではない。即時的な生活指導では、指導上に体系がつけにくいし、一貫性を欠く心配もでてくる。計画をもっていれば、いきあたりばったりでなく、幼児としての人格形成をする要素を、もれなくもりこむことができるのである。ここで私たちが警戒しなければならぬことは、計画にしばられてはいくでもないことである。これは今さらいうまでもないことであるが、計画は、私たち教師がこのような経験をさせたいという予想であつて、必ずしもそのとおりに経験内容が展開されるとは限らない。計画にあるから教えるのだということでは、お説教におちいる危険性もある。だから、実際の生活や指導の場の中で、計画をいかしていく、努力と指導のくふうがなければならぬ。計画の中にも教師の予想しなかつた偶発的な問題も起るであろうし、あるいは、子どもの理解が予期以上にはやく、飛躍した生活の場もでてくるであろうから、計画には弾力性をもたせることが必要となつてくる。

道徳教育は、人間を特定の考えや行動のしかたの型に、はめこむのをねらうのではない

く、現実には即しながら、それを理想とする人間像に一步、一步近づけていくためのものがある。徳目を並べて、これに子どもをひきずつていこうというのではない。しぜんな生活の場で、人格形成のための要素を流していくというふうには、道徳教育を考えたい。

では、道徳教育を行なえば、生活指導はしなくてもよいかという疑問がおこってくるが、これは「生活指導か、道徳教育か」という問題につながってくるが、本園では、このような二者択一の立場ではなく、場にのぞみ、機に応じて必要なことはただちに教えていくという、生活指導もくりかえし指導していく。がまたその一方、計画をもつた道徳教育もしていくという両者あい助け、あい補うという立場で、道徳教育をすすめていきたいと考えている。

### 3 社会の領域と道徳教育

幼稚園における道徳指導の場は、社会の領域にその多くをみることができる。だから、社会の領域を深くきわめていけば、道徳教育は必要ないのではないかと、疑問がおこってくる。しかし、幼児の全人的な教育は、社会のみでは行なえないと思う。だから、社会の領域のみで、道徳教育はことたれりとする考え方には賛成できない。言語の領域の中

にも、自然の領域の中にも、道徳指導の場は存するものである。たとえば、あいさつをしようずにしましようということを生生活指導の目標としても、ことばについての経験がじゅうぶんでなかったら、これを実践に移すことはできないと思う。だから、あいさつのしかたを、言語の領域でじゅうぶんに教えてからこれを実践に移す方が、幼児としては実践しやすいのである。

このように言語の領域でも、道徳性育成のだいいな場があるわけである。また、自然の領域でも、動植物を愛するという、生物愛護の念を涵養する場も存するので、社会のみにしての円満な人格形成はできない、といって過言ではなからう。社会の領域もまた同様である。幼児が具体的な社会関係を、しだいに広く理解したり、社会のもつさまざまな機能について学んだりすることは、社会における、自己のあり方、自己と社会との関係の自覚につらなるものであり、社会における具体的な生活行動のしかたなどを学ぶので、道徳教育とは、きりはなせない関係をもつのである。ここに、社会の領域を通じて、道徳心の啓培に力を注いできたゆえんもあるのである。しかし、社会の領域において、直接に幼

児の道徳的な心情や態度、あるいは、道徳的な判断などを強調することによって、社会認識そのものが弱められてはならないと思う。社会認識を基盤とせずには、道徳性の形成のみをねらっても、それがただちに、幼児の生活の中により実践として根をおろすとは限らない。幼児はそれのおかれている環境に即して、さまざまな態度や行為となって実践されるのである。

このように考えてくると、道徳指導は、具体的な環境に即して行なうことが、基本でなくてはならない。

#### 4 六領域と道徳教育

六つの領域の中で、道徳性を指導する場は、さまざまな形ででてくるが、あらかじめ観点をはっきりしておかないと、指導の場をのがしがちになることがある。

たとえば、絵画製作の活動の中で、目標として、好きなものを自由にかくという場合、子どもが自由画帳にかきはじめたが、思うようにはかかないので、これをぬりつぶして、次のページへ移り、これも気にいらないので、また次の紙を使うことがある。これは物をたいてせつに使うという道徳指導にもなるので、指導の場を予想して、その領域で行なう、道徳的な面を計画の中にもりこむように考慮し

たいものである。ただ、この場合、物をたいせつに使うという道徳意識を教師が強く出しすぎると、子どもの活動がいしゆくするの

で、注意が肝要である。幼児の生活は、さまざまな要素が重なりあつた、総合的なものであるから、道徳教育も特設時間や特定の領域のみで行なわれるものではない。

幼稚園生活のあらゆる場で、機会に即して行なわなくてはならない。幼児の生活の実態から、あるいは、カリキュラムの題材の中から、毎日の生活の中で、どのような道徳的なものをとりあげていったらよいかを研究して、各領域の中で無理なく、道徳指導が行なえるように、くふうしたいものである。

#### 5 幼児と道徳性

幼児の生活は自己中心的であることは、周知のとおりである。だから、対人関係においても、対物的関係においても、自分がいつも中心とならなければ承知しないものである。また、善悪の判断も、自分の行動を制御する感情も発達していない。であるから、まわりのおとなや両親、教師が、よし・あしの方向づけをしていかななくてはならない。ただこの方向づけをことばだけで教えたのでは、知的な面だけの理解であつて、それを行動として実

実践に移すことはむずかしいと思う。

たとえば、「知った人と道であつたらどうしますか。」ときいてみると、「こんにちとはどういさつをします。」とおおかたの子どもが答えるが、実際には道で教師とあつても、知らん顔をして通りすぎるのが幼児である。また、「お客様がいらしたら、いらっしやいませとおじぎをするのですよ。」と教えても、いざ本番になると、母のかけにかくれるのが実際である。それゆえ、実際の場でやらせてみるのが、行動として実践に移せるようになる。先ほどのべてきたように、具体的な生活の場で、話しあつたり、やらせてみたりして、それ自身につけさせるようにしなくてはならない。

## 6 幼稚園の道徳教育における教師の役割

幼稚園の道徳教育における教師の役割は、小学校以上の学校におけるそれよりも、重くかつ大きいように思う。なぜならば、前にものべたように、未分化な幼児であるがゆえに、教師の与える影響もまた大きいのである。幼児にとって、幼稚園の教師は絶対的な存在である。「すき、きらいせずになんでもたべましよう」といえば、きらいになんじんもお弁当に持ってくるし、「先生がおこづかいをむだづかいしてはいけないとおっしやいましてよ。」と母親がいえば、これもしなくなる

いうふうには、教師のひとことは絶対的である。また、昔から、親は子どもの鏡といふことばもあるが、教師もまた、子どもの鏡である。教師か子どもに「自分の持ち物はきれいに片づけましよう。」といっても、教師自身の机の上がいつも書類や本でちらかつていたのでは、道徳性は養われなであらう。それゆえ、教師は教室の環境をいつもきれいにととのえ、子どもたちが気持ちよく学習できるようにしておくことがたいせつである。また必要以上に着飾ることはいけないが、いつもこざっぱりと清潔な服装をしていることも、道徳指導上欠くことのできないことである。なお、職場での同僚関係がなごやかにいければ、保育室での雰囲気もなごやかになり、楽しい中で幼児の指導ができるであらう。

このような楽しいふんいきの中でこそ、お友だちと協力するとか、自分のわがままをおさえるなどという、道徳的な心情も培われていくことと思う。

このようにみえてくると、道徳教育は結局のところ人間どうしの関係がどうあつたらよいかという、方向づけをすることである、といえるのではなからうか。

## 7 道徳指導と保育の実際

では道徳を、どのように保育の場で、実際

に指導したらよいかについてのべてみよう。

とかく道徳指導というと、べからず主義のコチコチの保育が考えられがちである。こうしてはいけません、ああしてはいけませんという式の保育では、子どもがのびのびと生活できないし、いじけた、かげひなたのある子どもになつてしまふ。道徳指導だからと目くじら立てて、子どものあさがしをする必要はないのである。普通の授業をしながら、道徳の指導目標をしっかりとふんまえて、目標からはずれた行動のみられる子どもがいたならば、それを好ましい方向へ手をひいてやればよいのである。

授業の留意点としていくつかあげると、

● 指導案に道徳的な面をもちこむ。

● 指導計画には道徳的なものをもりこむが教師はことさらこれを意識せずに普通の授業をする。

● 計画は弾力性をもたせる。

● 授業の流れの中でねらいとするものが出てこない場合は、そのような場を設定してみる。

● 場の設定は、集団の中の個人の場合と集団全体としての場合とを考へてみる。

● 以上のようなことを留意して普通に授業をすればよいと思う。

以上のようなことを留意して普通に授業をすればよいと思う。

8 本園道徳指導の内容を小学校道徳指導の三十六項目にあてはめてみると、下の表の如くである。

下の表を領域別にみると、道徳的な内容が多くもられているのは、年長・年少とも、社会がいちばん多く、次に健康となっている。

この表からわかることは、社会の領域では、幼児が社会の一員として、生活の場での問題が多く扱われるし、健康では基本的な生活習慣の函養にウェイトがおかれていることがうなずける。

また、組別の項目を対比してみると、年長組では、二番めに自主になっているのは、生活経験の高まりがわかるし、年少の二番めは礼儀作法になっている。これは礼儀作法といってもかたくなるしいものではなく、ごく簡単な日常生活のあいさつ程度である。数字を順にながめていくと発達段階を考慮してあることが了解いただけると思う。

このほか本園では、父兄の道徳教育についての希望や、望ましい人間像についての調査をした。調査内容も、小学校道徳指導の三十六項目をよりどころとして、幼稚園的な表現をした。次頁の表がそれである。

調査にあたって表の上にある文章をつけて家庭に調査表をくばった。また、教師も担任

年長組										年少組									
番号	項目	健康	社会	自然	言語	音楽リズム	絵画製作	計		番号	項目	健康	社会	自然	言語	音楽リズム	絵画製作	計	
1	健康安全	46	2	2	1	1	4	56		1	健康安全	20	1	1	0	1	3	26	
2	自主	3	7	1	5	1	2	19		2	礼儀作法	7	5	0	6	1	1	20	
3	礼儀作法	3	5	0	6	2	2	18		3	規律尊重	5	11	0	1	0	0	17	
4	規律尊重	2	10	1	0	1	1	15		4	美化整頓	0	4	2	0	0	6	12	
5	美化整頓	0	7	3	0	0	5	15		5	自制節度	0	2	1	4	1	1	9	
6	自制節度	1	5	1	2	3	1	13		6	自主	1	5	0	1	0	1	8	
7	勤労協力	1	6	1	1	1	3	13		7	独立	0	2	0	1	1	2	6	
8	創意くふう	0	0	0	3	2	3	8		8	生物愛護	0	0	5	0	0	0	5	
9	節約	0	4	1	0	0	3	8		9	勤労協力	0	1	1	0	0	3	5	
10	探究心	0	5	2	1	0	0	8		10	公共心	0	2	0	0	1	1	4	
11	親切同情	2	3	0	0	1	1	7		11	尊敬感謝	0	3	0	0	0	1	4	
12	独立	2	1	1	0	2	1	7		12	節約	0	2	0	0	0	2	4	
13	忍耐	1	3	1	1	0	1	7		13	明朗快活	0	0	0	1	2	0	3	
14	尊敬感謝	0	3	1	0	0	1	6		14	人格尊重	1	0	0	0	1	1	3	
15	明朗快活	2	1	0	1	2	0	6		15	進取	1	0	0	1	1	0	3	
16	人格尊重	1	2	0	0	1	1	5		16	親切同情	1	0	0	0	1	1	3	
17	公平	1	2	0	0	1	1	5		17	探究心	0	2	1	0	0	0	3	
18	公共心	0	3	0	0	1	0	4		18	創意くふう	0	0	0	0	1	1	2	
19	努力向上	1	0	0	1	1	1	4		19	自由責任	0	2	0	0	0	0	2	
20	自由責任	0	4	0	0	0	0	4		20	敬重	0	0	0	0	1	1	2	
21	進取	1	0	0	2	1	0	4		21	時間尊重	0	1	0	0	0	0	1	
22	正直誠実	0	3	0	1	0	0	4		22	正直誠実	0	1	0	0	0	0	1	
23	敬重	0	0	1	0	1	1	3		23	公平	0	1	0	0	0	0	1	
24	生物愛護	0	0	3	0	0	0	3		24	忍耐	0	0	0	1	0	0	1	
25	時間尊重	1	2	0	0	0	0	3		25	信頼	0	1	0	0	0	0	1	
26	家族愛	0	2	0	0	0	0	2		26	家族愛	0	1	0	0	0	0	1	
27	思慮反省	0	2	0	0	0	0	2		27	努力向上	0	0	0	0	0	0	0	
28	寛容	0	1	0	0	0	0	1		28	寛容	0	0	0	0	0	0	0	
29	個性尊重	0	1	0	0	0	0	1		29	個性尊重	0	0	0	0	0	0	0	
30	正義勇氣	0	1	0	0	0	0	1		30	正義勇氣	0	0	0	0	0	0	0	
31	愛校心	0	1	0	0	0	0	1		31	愛校心	0	0	0	0	0	0	0	
32	信頼	0	1	0	0	0	0	1		32	思慮反省	0	0	0	0	0	0	0	
33	合理精神	0	0	0	0	0	1	1		33	合理精神	0	0	0	0	0	0	0	
34	権利義務	0	0	0	0	0	0	0		34	権利義務	0	0	0	0	0	0	0	
35	愛国心	0	0	0	0	0	0	0		35	愛国心	0	0	0	0	0	0	0	
36	人類愛	0	0	0	0	0	0	0		36	人類愛	0	0	0	0	0	0	0	
合計		68	87	19	26	22	33	255		合計	36	47	11	16	12	25	147		

道徳指導の項目調査について

上記につき小学校との関連について調査してみたいと思います。つきましては、次に小学校道徳指導の項目36を幼児向に表現しました。次の項目のうち、幼稚園教育でいちばんないせつと思われるものを3つえらんで◎印、次に必要と思われるものを7項目に○印をつけてください。

番号	項 目	年 長 組				年 少 組			
		◎父兄	◎教師	○父兄	○教師	◎父兄	◎教師	○父兄	○教師
1	からだに気をつけ自分から健康を守る子ども (健康安全)	22	24	10	14	17	23	19	5
2	自分のことは自分でする子ども (独立)	27	28	21	14	14	18	14	13
3	礼儀正しい子ども (礼儀作法)	3	8	12	12	4	6	6	21
4	使ったものや遊んだあとをきれいに片づける子ども (美化整頓)	5	10	16	18	5	13	9	12
5	物やお金をむだづかいしない子ども (節約)	0	4	8	6	2	0	5	5
6	時間を守る子ども (時間尊重)	4	2	11	13	2	0	7	7
7	お友だちのよいところをみとめてあげる子ども (人格尊重)	1	4	5	19	1	3	3	5
8	自分で遊びを考え進めていける子ども (自主)	8	19	18	23	5	8	12	19
9	自分のしたこと、思ったこと、決められたことは責任をもつ子ども (自由と責任)	6	3	23	12	5	3	8	17
10	正直でかげひなのない子ども (正直誠実)	18	9	17	14	7	5	13	4
11	正しいと思つたことはすすんでできる子ども (正義勇氣)	6	6	28	24	10	12	16	9
12	最後まであきらめないでじことのできる子ども (忍耐)	3	1	8	16	0	1	8	2
13	してよいこと悪いことの判断のできる子ども (思慮反省)	2	1	8	15	2	2	2	3
14	わかまやかんしゃくをおこさないで自制のできる子ども (自制節度)	15	8	17	15	3	2	16	8
15	人のいいことをすなおにきいて明るい生活のできる子ども (明朗快活)	30	6	23	14	15	13	21	18
16	生きものや草花をかわいがる子ども (生物愛護)	4	2	24	7	1	4	12	11
17	美しい物やけだかいものをたつぷ (敬愛)	0	6	3	3	0	0	2	1
18	自分のよいところを認めてのばそうとする子ども (個性伸長)	0	3	3	4	0	0	0	0
19	目的に向つて努力する子ども (努力向上)	1	0	9	18	0	0	1	3
20	どうするのがいいかを考えてする子ども (合理解精神)	1	3	4	18	1	2	3	2
21	ものごとについてよく考えよう創造する子ども (創意くふう)	5	6	25	8	2	3	5	3
22	科学的なものに興味をもつて探究しようとする子ども (探究心)	1	2	5	11	0	0	5	8
23	自分の意見を人前ですすんで発表しようとする子ども (進取)	5	19	18	21	0	0	2	2
24	お友だちが困っているとき助けてあげようとする子ども (親切同情)	4	12	28	16	0	1	13	13
25	働く人や両親に感謝や尊敬の気持ちをもつ (尊敬感謝)	0	1	8	13	0	0	11	13
26	たがいに信じあいたすけあう (信頼)	1	0	8	4	0	0	1	2
27	だれとでも仲よくあそぶ子ども (公平)	1	10	15	24	0	4	1	0
28	人のあやまちを許してあげられる子ども (寛容)	1	5	9	16	0	2	11	14
29	きまりを守る子ども (規律尊重)	12	15	20	17	3	8	2	5
30	自分のしなくてはならないつとめをきちんとはたす (権利義務)	4	2	9	14	0	9	10	8
31	友だちと協力して遊びやしごとのできる子ども (勤労協力)	12	13	16	28	7	9	15	9
32	みんなのものをないせつにする子ども (公共心)	4	7	23	22	7	2	10	9
33	きょうだい仲よくする子ども (家族愛)	3	0	7	1	2	0	10	2
34	自分の幼稚園に愛情をもち、先生やお友だちに愛情を示す (愛校心)	6	0	15	1	6	0	3	0
35	日本人であることを考え国を愛する (愛国心)	0	0	2	0	0	0	0	0
36	世界の人々を広く知って仲よくしていく (人類愛)	0	0	7	0	0	0	0	0

園児ひとりひとりについて◎印や○印をつけ集計した。

以上の結果から考察して、この地域の父兄の道徳教育についての考え方がわかるように思う。いちばん数字の多いのは、明朗快活で次が独立、健康、自主の順になっている。この順位をみると父兄と教師の考え方のずれはそんなにないように思われるが、社会の一員としてみた場合、集団生活の中のたいせつな規律尊重、親切同情、勤労協力、美化整頓という面では、教師の数字が多くなっている。また、年長、年少を比較してみると、年少では健康が一番になっている。これはやはり発達段階から考えて妥当だと思う。なお、年長児は家庭ではわがままで、集団生活にはいるとあるていど自制のできるこがわかる。このような面から考えて、幼児は成長するにしたがって、自制することができるようになる。稚園生活の使いわけができるように思える。父兄と教師との観点の相違の出できたのは当然のことといえるかもしれない。こんごはこれらのことについて、両者が共通の理解に立って、幼児の道徳指導の路線としていかねばならない。

備考 以上の研究は新宿区幼稚園教育研究会で本園として発表したものである。